

平成29年中のニセ電話詐欺認知状況等について

平成30年1月18日
捜査第二課
生活安全総務課

1 ニセ電話詐欺の認知状況

(1) 平成29年中のニセ電話詐欺の認知状況

○ 認知件数、被害額

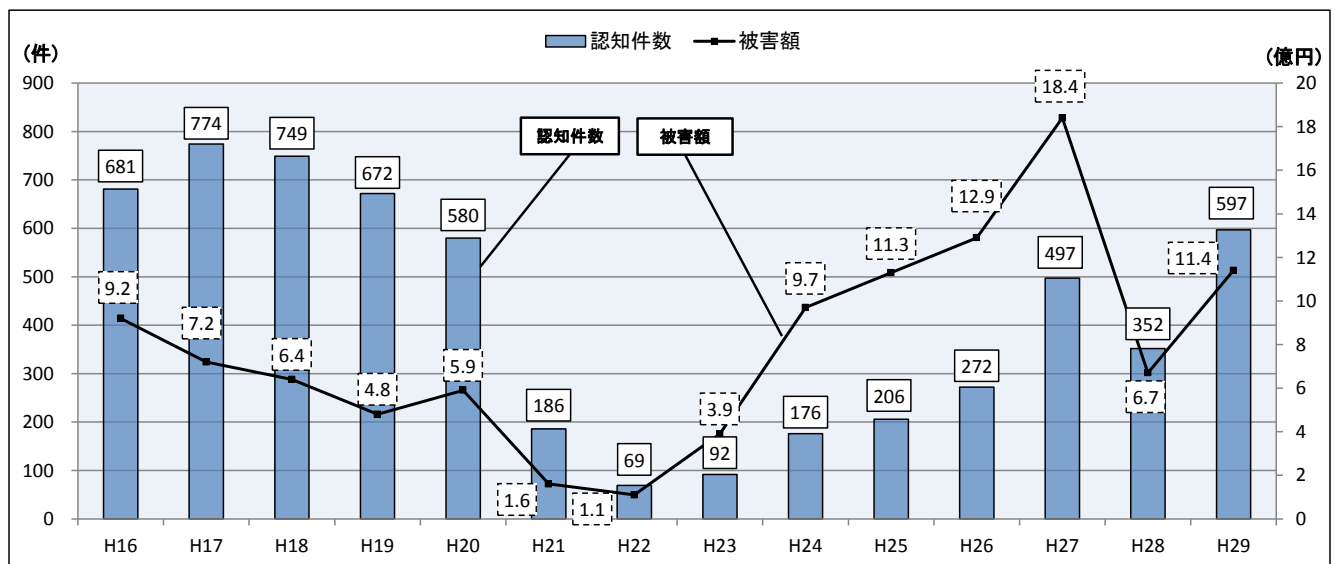
認知件数 597件 (前年比+245件、70%増)

被害額 11億4,263万円 (前年比+4億7,739万円、72%増)

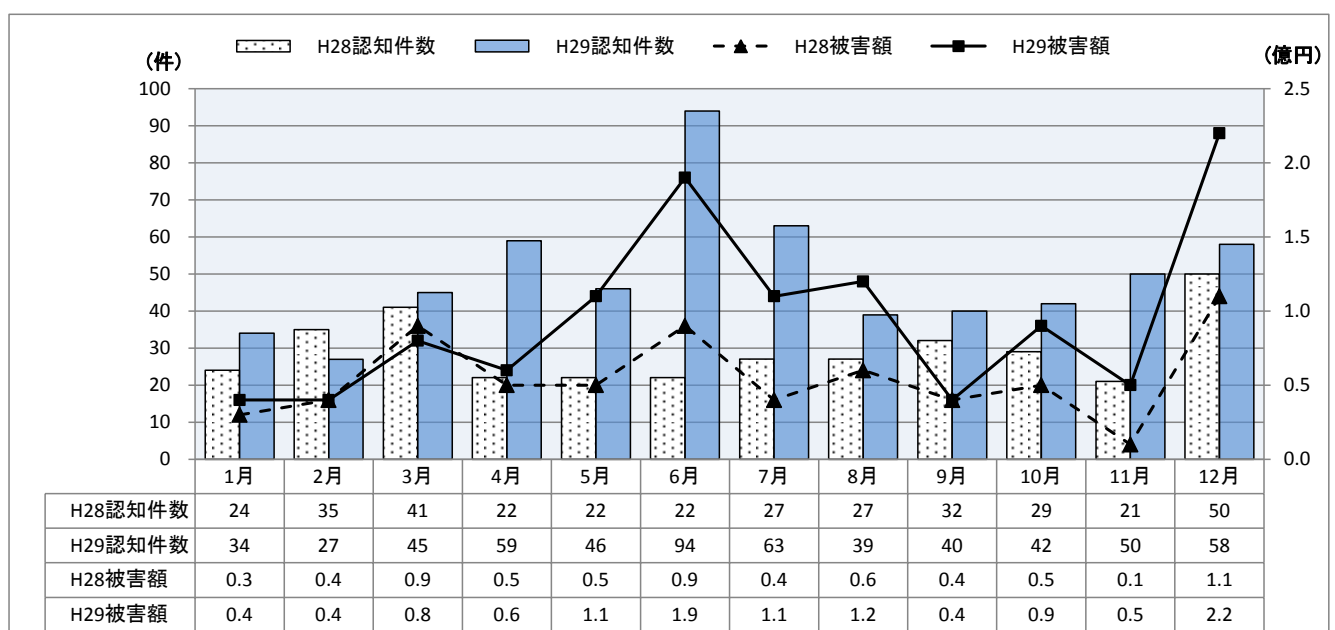
○ 情勢全般

- ・ 認知件数、被害額とも前年と比較して大幅に増加
- ・ 認知件数は、過去10年で最多を記録
- ・ 被害額は、一昨年は大幅に減少したものの、2年ぶりに10億円を超える。
- ・ 月別に見ると、6月をピークに一旦は減少傾向を見せるも、年末にかけて被害が増加

【認知件数、被害額の年別推移】



【認知件数、被害額の月別推移】



2 類型別の認知状況について

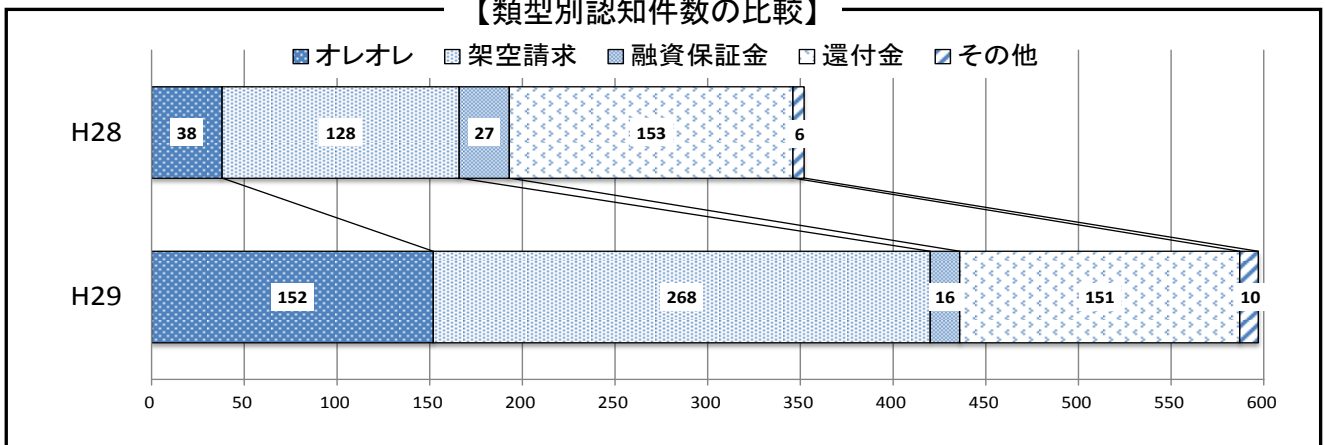
【振り込め詐欺】

		福 岡			
		H29年	H28年	増 減	
		1～12月	1～12月	件・円	比率
オレオレ	件数	152件	38件	+114件	+300%
	被害	5億2582万円	1億2465万円	+4億0117万円	+322%
架空請求	件数	268件	128件	+140件	+109%
	被害	3億1877万円	3億4474万円	-2596万円	-8%
融資保証	件数	16件	27件	-11件	-41%
	被害	1379万円	3980万円	-2600万円	-65%
還付金等	件数	151件	153件	-2件	-1%
	被害	1億8327万円	1億3500万円	+4827万円	+36%
総 計	件数	587件	346件	+241件	+70%
	被害	10億4165万円	6億4418万円	+3億9747万円	+62%

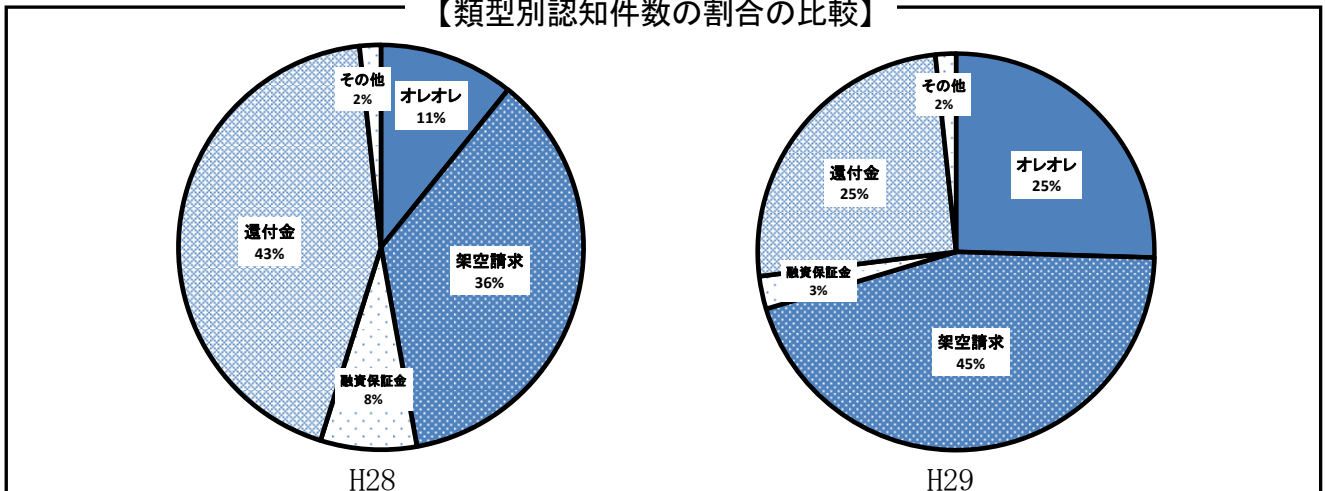
【振り込め詐欺以外のニセ電話詐欺】

		福 岡			
		H29年	H28年	増 減	
		1～12月	1～12月	件・円	比率
金融商品	件数	6件	4件	+2件	+50%
	被害	6604万円	1632万円	+4972万円	+305%
ギャンブル	件数	4件	1件	+3件	+300%
	被害	3493万円	309万円	+3184万円	+1030%
交際あっせん	件数	0件	1件	-1件	-100%
	被害	0万円	164万円	-164万円	-100%
その他	件数	0件	0件	±0件	-
	被害	0万円	0万円	±0万円	-
総 計	件数	10件	6件	+4件	+67%
	被害	1億0097万円	2106万円	+7992万円	+380%

【類型別認知件数の比較】



【類型別認知件数の割合の比較】



(1) オレオレ詐欺

- 認知件数、被害額

認知件数 152件 (前年比+114件、300%増)

被害額 5億2,582万円 (前年比+4億117万円、322%増)

- 特徴的傾向

- ・ 認知件数、被害額ともに前年と比較して大幅に増加
- ・ 被害額は、8類型の中で最多 (全体の約35%を占める。)
- ・ 息子などの親族をかたる手口が約9割を占め、他には、警察官、郵便局員などをかたった手口が発生

- ・ 息子だけでなく、娘や姪など女性をかたる手口も発生
- ・ 被害金の交付形態は、受取型が約9割を占める。
- ・ 被害者の約95%が65歳以上の高齢者、約88%が女性であり、高齢女性が被害に遭う傾向がある。

年代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	合計
被害者数	0	0	0	0	2	18	63	64	5	152

○ 手口例

【息子かたり～鞆盗難名目～】

被害者方に息子をかたる男等から電話があり、「病院で鞆を盗まれた。鞆には財布、携帯電話、通帳などが入っていた。」「JRの者ですが、息子さんのバッグが届いています。」「カバンは見つかったけど、通帳を停止しているので1千万円の取引ができない。いくらか用意できないか。」などと言われ、これを信じた被害者が、自宅に現れたナカムラを名乗る男に現金200万円を手渡し、だまし取られた。

【孫かたり～横領名目～】

被害者方に孫をかたる男から電話があり、「同僚と会社のお金1,600万円を使って株を購入して損をした。2人で半分ずつ返さないといけない。」「600万円なんかないか。」などと言われ、これを信じた被害者が、指示に従って新幹線で東京へ行き、指定された東京都内の路上において、ヤマダを名乗る男に現金600万円を手渡し、だまし取られた。

【JR職員、警察官かたり】

被害者方にJR職員や鉄道警察隊、弁護士などを名乗る男らから電話があり、「豪華列車の予約をされていますよね。」「JRの旅行の件で被害届が出ています。」「このままでは罪に問われます。」「仮保釈金が必要です。」「財産を預けた方がいいですよ。」などと言われ、これを信じた被害者が、指定された東京都内の住所地に現金を送付したり、自宅付近に受け取りに来た男に現金を渡すなどして、現金合計約7,400万円をだまし取られた。

(2) 架空請求詐欺

○ 認知件数、被害額

認知件数 268件（前年比+140件、109%増）

被害額 3億1,877万円（前年比-2,596万円、8%減）

○ 特徴的傾向

- ・ 前年と比較し、認知件数はほぼ倍増するも、被害額は微減
- ・ 有料サイトの利用料金等を名目とした手口が191件と最多で、架空請求詐欺の約7割を占める。
- ・ 交付形態では、1件あたりの被害額が比較的少ない電子マネー型が約6割を占める。
- ・ 被害者の約72%が64歳以下、約67%が女性であり、高齢者以外の幅広い世代が被害に遭う傾向がある。

年代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	合計
被害者数	10	31	41	38	48	49	38	13	0	268

○ 手口例

【有料サイト利用料金等名目～電子マネー型～】

被害者の携帯電話に「登録料金の未納が発生している。」という内容のメールが届いたため、メールに記載された電話番号に架電したところ、ナカムラと名乗る男から「47万円が未払いになっています。」などと言われ、さらに別の男からも「別の未払い金がある。」「弁護士費用がかかる。」等と言われ、複数のコンビニエンスストアにおいて、合計600万円分の電子マネーカードを購入して、相手にカード番号を伝え、電子マネー利用権をだまし取られた。

【有料サイト利用料金等名目～コンビニのマルチ端末利用～】

被害者の携帯電話に「登録料金の未納が発生している。」という内容のメールが届いたため、メールに記載された電話番号に架電したところ、キムラと名乗る男から「未納料金の支払いのため、コンビニに行ってくれ。」などと言われ、指示されるまま、コンビニに設置のマルチ端末を操作し、出てきたレシートをレジに持って行き、現金を支払い、だまし取られた。

【還付金名目～キャッシュカード手交型～】

被害者方に市役所職員を名乗る男から電話があり、「保険料の支払いがあります。持っている口座を教えてください。」などと言われ、さらにA銀行から電話があり、「今お持ちのキャッシュカードは古くて使えません。新しいカードは郵送しますので、とりあえず古いカードを回収に行きます。」などと言われ、これを信じた被害者が、自宅に現れた銀行員を名乗る男にキャッシュカードを渡し、だまし取られた。

(3) 融資保証金詐欺

○ 認知件数、被害額

認知件数 16件（前年比－11件、41%減）

被害額 1,379万円（前年比－2,600万円、65%減）

○ 特徴的傾向

- ・ 認知件数、被害額ともに前年と比較して減少
- ・ 融資に必要な保証金や手数料名目で現金を振り込ませる手口
- ・ 被害者の約81%が64歳以下、約69%が男性であり、高齢者以外が被害に遭う傾向がある。

年代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	合計
被害者数	0	4	2	2	4	3	1	0	0	16

○ 手口例

被害者が経営する会社事務所にFAX送信されてきた融資案内を見て、被害者が800万円の融資を申し込み、貸金業者の社員を名乗る男2名と電話やFAXでやり取りをしたところ、「融資実行に際しては、事務手数料が必要です。」「依頼人名に契約番号が入っていない。」「番号を間違えている。」「実行手数料が必要です。」「保証金が必要です。」などと言われ、これらの話を信じて、相手が指定する口座に複数回に亘って現金を振り込み、現金合計約500万円をだまし取られた。

(4) 還付金詐欺

○ 認知件数、被害額

認知件数 151件（前年比－2件、1%減）

被害額 1億8,327万円（前年比＋4,827万円、36%増）

○ 特徴的傾向

- ・ 前年と比較して、認知件数は微減、被害額は増加
- ・ 1月～7月に多発（144件）するも、8月以降は大幅減（7件）
- ・ 名目別では、「健康・社会保険の還付金名目」96件、「医療費の還付金名目」40件、「税金の還付金名目」4件、「その他の名目」11件である。
- ・ 被害金の交付形態は、全て、ATMを指示どおりに操作させる振込型
- ・ 被害者が利用したATMは、全て、スーパーやショッピングモール等の商業施設、病院、駅などの無人のATMである。
- ・ 被害者の約96%が65歳以上の高齢者、約77%が女性であり、高齢女性が被害に遭う傾向がある。

年代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	合計
被害者数	0	0	0	1	0	30	103	17	0	151

○ 手口例

被害者方に市役所の職員を名乗る男から電話があり、「国民健康保険の還付金があります。」「手続きは今日までなので銀行から電話させます。」等と言われ、さらに、銀行員を名乗る男から電話があり、「手続きのやり方を教えますので携帯電話番号を教えてください。」「スーパーのATMが新しくなったので手続きできます。」等と言われ、指定されたスーパーのATMに行き、指示通りにATMを操作したところ、2回にわたり、指定された2口座に現金合計約180万円を振り込み、だまし取られた。

(5) 金融商品等取引名目のニセ電話詐欺

○ 認知件数、被害額

認知件数 6件（前年比＋2件、50%増）

被害額 6,604万円（前年比＋4,972万円、305%増）

○ 手口例

被害者方にA社から電話があり、「以前あなたが購入した債券を買い取って売却します。」「債券はB社の株と一緒にないと売却できませんので、B社の株を50口1,000万円分購入してください。」などと言われ、これを信じた被害者が、自宅に現れた男に株購入代金として現金1,000万円を手渡し、だまし取られた。

(6) ギャンブル必勝法情報提供名目のニセ電話詐欺

○ 認知件数、被害額

認知件数 4件（前年比＋3件、300%増）

被害額 3,493万円（前年比＋3,184万円、1,030%増）

○ 手口例

A社の社員を名乗る男から「地方競馬では出来レースが開催されている。」「競走馬に不慮の事故がない限り、間違いなく的中する。」等と電話があり、情報料などとして指定された口座に現金を振り込み、だまし取られた。

(7) 異性との交際あっせん名目のニセ電話詐欺

認知なし

(8) その他の名目のニセ電話詐欺

認知なし

3 被害金交付形態別の認知件数、被害額

○ 認知件数

【平成29年】

	件数	割合
振込型	223件	37%
送付型	41件	7%
受取型	172件	29%
電子マネー型	161件	27%

【平成28年】

	件数	割合
振込型	239件	68%
送付型	21件	6%
受取型	48件	14%
電子マネー型	44件	13%

○ 被害額

【平成29年】

	被害額	割合
振込型	3億8660万1718円	34%
送付型	1億6084万1540円	14%
受取型	5億2611万5599円	46%
電子マネー型	6907万0140円	6%

【平成28年】

	被害額	割合
振込型	3億1383万4036円	47%
送付型	9709万4000円	15%
受取型	2億2995万7000円	35%
電子マネー型	2435万2416円	4%

○ 1件あたりの被害額

【平成29年】

	1件あたりの被害額
振込型	173万円
送付型	392万円
受取型	306万円
電子マネー型	43万円

【平成28年】

	1件あたりの被害額
振込型	131万円
送付型	462万円
受取型	479万円
電子マネー型	55万円

○ 特徴的傾向

- ・ 認知件数では、振込型の割合が減少し、受取型、電子マネー型の割合が倍増
- ・ 被害額では、受取型の割合が増加し、振込型の割合が減少
- ・ コンビニエンスストアなどでアマゾンギフト券などの電子マネーを購入させ、そのID番号を教えるよう要求する電子マネー型が多発
- ・ 1件あたりの被害額は、送付型、受取型が高額になる傾向があり、電子マネー型は比較的少額

4 被害者の男女別・年齢別の認知状況

(1) 男女別

	男性	女性	合計	男性・割合	女性・割合
認知件数	159	438	597	27%	73%
被害額	3億1,025万円	8億3,238万円	11億4,263万円	27%	73%

○ 特徴的傾向

認知件数、被害額ともに女性の割合が高い。

(2) 年齢別

○ 年代別の被害者数

年代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	合計
被害者数	10	37	43	42	56	101	206	97	5	597

○ 65歳以上の高齢者の割合

	65歳以上	64歳以下	合計	65歳以上割合	64歳以下割合
認知件数	371	226	597	62%	38%
被害額	9億3,705万円	2億558万円	11億4,263万円	82%	18%

○ 特徴的傾向

認知件数、被害額ともに、65歳以上の高齢者の割合が高い。

5 被害者への聞き取り調査結果

(1) 家族構成

「独居」31%、「同居（65歳以上の高齢者のみ）」27%、「同居（65歳未満の者がいる）」42%

(2) 家族との連絡頻度（「独居」「同居65歳以上の高齢者のみ」と回答の者のみ）

「毎日」18%、「週に1回以上」30%、「月に1回以上」29%、「その他」23%

(3) 被害に遭ったきっかけ

○ 全体

「固定電話」58%、「携帯電話・メール」37%、「その他」5%

○ 還付金詐欺

「固定電話」98%、「携帯電話・メール」1%、「その他」1%

○ オレオレ詐欺

「固定電話」94%、「携帯電話・メール」6%

○ 架空請求詐欺

「固定電話」19%、「携帯電話・メール」74%、「その他」7%

(4) 手口を知っていたか

○ 全体

「知っていた（なんとなく知っていた）」59%、「知らなかった」41%

○ 還付金詐欺

「知っていた（なんとなく知っていた）」75%、「知らなかった」25%

○ オレオレ詐欺

「知っていた（なんとなく知っていた）」84%、「知らなかった」16%

○ 架空請求詐欺

「知っていた（なんとなく知っていた）」38%、「知らなかった」62%

(5) 情報収集 ※複数回答項目

「テレビ」41%、「新聞」24%、「回覧板」11%、「インターネット」7%、「ラジオ」4%
「その他」13%

(6) なぜ、手口を知っていたのにだまされたのか（手口を知っていた者のみ）

「自分が被害に遭うと思っていたいなかった」50%、「手口が巧妙」39%、「その他」11%

(7) 金融機関窓口での払い出し理由

- 「リフォーム費用」 21%、「墓・葬儀費用」 13%、「特にない」 33%、「その他」 33%
- (8) 各種会合への参加
「有り」 31%、「無し」 69%
- (9) ATMでの振込みの利用頻度
- 全体
「無し」 23%、「1年以上無し」 14%、「年1回以上」 17%、「月1回以上」 46%
 - 還付金詐欺
「無し」 25%、「1年以上無し」 14%、「年1回以上」 19%、「月1回以上」 42%

6 対策の推進結果

(1) 検挙対策の推進結果

ア 総検挙人員

70人（前年比+28人） ※ 過去最高の検挙人員

○ 「だまされた振り作戦」による現場検挙

捜査第二課特殊詐欺対策室現場指導係（通称「チーム防人(さきもり)」）を中心に、特殊詐欺総合対策プロジェクトチームと警察署が緊密な連携を図り、「だまされた振り作戦」を徹底した結果、

受け子等27人（前年比+17人）

を現場検挙

○ 突き上げ捜査による上位被疑者の検挙

「だまされた振り作戦」等により検挙した受け子等の末端被疑者からの突き上げ捜査を徹底し、

現役暴力団組員を含む指示役、リクルーター役等28人（前年比+3人）

を検挙

○ その他、事後捜査等により、被疑者15人（前年比+8人）を検挙

イ 犯行グループの拠点摘発、首魁被疑者の逮捕

特殊詐欺事件の受け子兼出し子を検挙後、徹底した突き上げ捜査により、さいたま市内の犯行拠点を特定し、拠点急襲により首魁や架け子等を検挙

ウ 犯行ツール対策の強化

悪質なレンタル携帯電話会社を携帯電話不正利用防止法違反で検挙するなど、犯行ツール対策を推進

(2) 抑止対策の推進結果

阻止件数 937件（前年比+472件、102%増）

阻止額 7億8,649万円（前年比+3億7,209万円、90%増）

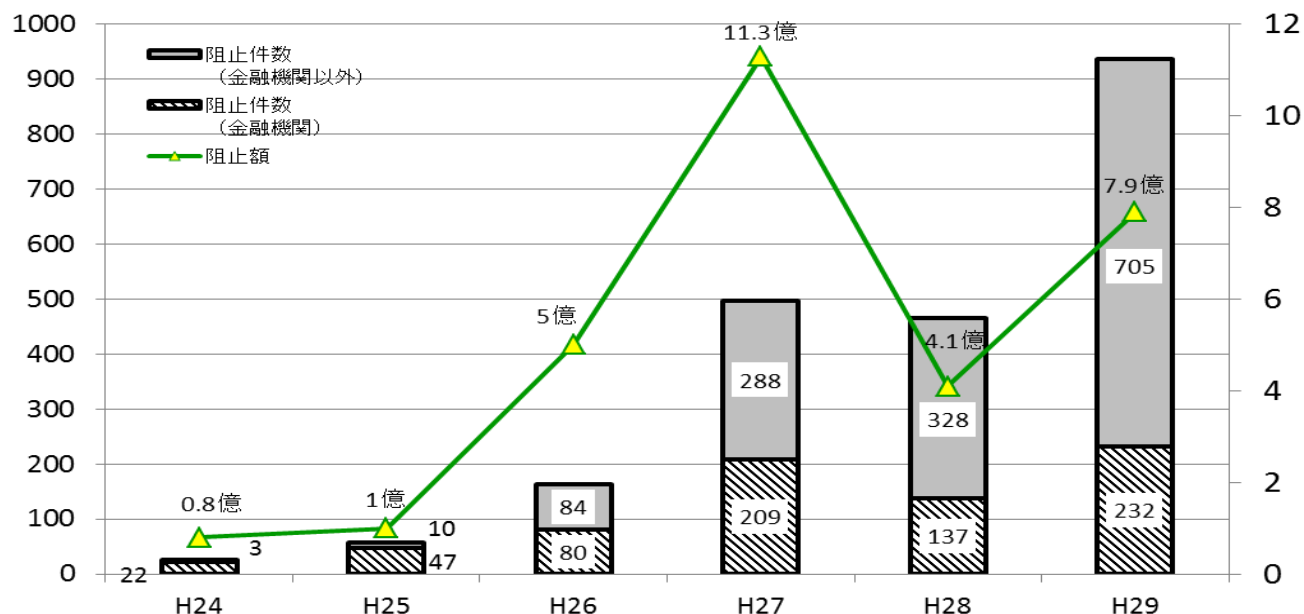
種別	金融機関				金融機関以外			合計	
	銀行	郵便局	その他	計	阻止額	件数	阻止額	件数	阻止額
件数	153 (16%)	49 (5%)	30 (3%)	232 (25%)	28,983	705 (75%)	49,666	937 (100%)	78,649
端緒	窓口			106 (11%)	23,830	家族	429 (46%)	39,141	
	ATM			17 (2%)	591	コンビニ	56 (6%)	951	
	電話相談等			109 (12%)	4,562	※その他	220 (23%)	9,573	

阻止額の単位：万円

※ その他 220 件の内訳

公務員 99 友人・知人 37 一般人 30
 会社員 19 警察官 9 警備員 8 店員 6 タクシー運転手 3
 各 2 (看護師、ケアマネージャー)
 各 1 (タクシー配車係、JR職員、弁護士、配送業、ケースワーカー)

○ 阻止の推移



○ ニセ電話気づかせ隊参加状況

平成29年12月末現在

10,527団体 33万7,426名

○ 阻止事例

・ 金融機関職員による阻止

被害者方に息子を名乗る男から「借金の保証人になり300万円必要。何時くらいに用意できるか。」との電話があった。

阻止者は、窓口で被害者が定期の解約等を申し出たことから、被害者から解約の理由を聞き出してオレオレ詐欺を看破し、本当の息子に連絡を取って事実でないことを確認し、被害を阻止した。

・ コンビニ店員による阻止

被害者の携帯電話に「有料サイト未払い料金発生。連絡なき場合、法的措置執行」とのメールが届き、記載された電話番号にかけると「未納料金の支払いに電子マネーカードを購入し、コード番号を教えるよう」指示された。

阻止者は、被害者が高額電子マネーカードを購入しようとしたことから、電子マネー型詐欺啓発用収納袋を示して「詐欺ではないか」と声をかけて被害に遭っていることに気づかせ、被害を阻止した。

・ 会社員 (ラジオパーソナリティ) による阻止

被害者の携帯電話に「コンテンツの未納料金があり、支払わなければ訴訟を起こす。」との電話があり、コンビニエンスストアのマルチメディア端末で料金を支払うよう指示された。

阻止者は、商業施設で被害者が携帯電話で「まだ未払いがあるのか。逮捕されるのか。」「コンビニに行く。」等と話しているのを聞いてニセ電話詐欺を疑い、被害者を説得して電話を替わって「詐欺ですよ。」等と話して電話を切断、警察に通報して被害を阻止した。

阻止者は、ラジオパーソナリティをしており、番組でニセ電話詐欺の話題を取り上げるなど、ニセ電話詐欺に関して高い知識を有していた。

- タクシー運転手による阻止

被害者方の固定電話に市役所職員を名乗る男から、「還付金の払い戻し手続きのため近くのATMに行くように」との電話を受けた。

阻止者は、タクシー車内で被害者の話を聞き、ニセ電話詐欺の被害に遭っているのではないかと思い、被害者を銀行へ同行、銀行員が警察に通報し、被害を防止した。

- ATM利用者・店員による阻止

被害者方の固定電話に市役所職員を名乗る男から「医療費の還付がある、手続きのため商業施設のATMコーナーに来るように」との電話を受けた。

阻止者は、携帯電話を使用しながらATMを操作している被害者を見て不審に思い、商業施設の店員とともに声をかけて説得し、ATMの操作を中断させて被害を阻止した。